

斎藤記者 振り返り

聞いたことのない新聞社で何をしているかわからなかつたけれど、他の新聞社と比べても、あまり変わりはないことがわかつた。どうして新聞記者になりたかったのか、どうしてその会社に入ったのかがきになつた。僕達からすると、新聞は字が多く内容がかたいイメージが強く、悪い事のニュースが多いと思うので、いいことをもっと取り上げるような新聞にしたらいいと思った。

新聞記者は色々な場所にいかないとダメだしそこで色んな人に取材をしなきやだめだからすごく大変だなと思った

僕はあまり新聞を読みたくないなぜなら文字が小さくて読みにくくからあと、文字ばっかりでおまり面白くない写真をもっと増やしたほうが読みやすいと思った。

記者は仕事の関係もあってまだ行ったことのない場所に行くことができるのも魅力の一つだと知れた。高校時代から新聞部に入っていてその時から新聞に興味を持っていて実際に記者になっているのがすごいなと感じた。

記者になつたらしたいと思っていた取材を実際に取材をしていてすごいと思った。

共同通信社という会社を知らなかつたけれど会社個人では記事を持っていないというのに驚いた。会社個人で記事を持たないことによって自分のしたい記事の取材にあてる時間も多くなると聞いてメリットもあるんだなと思った。

斎藤記者感想

今回の斎藤さんの、講演会を聞いて、新聞について今まで知らなかつたことがたくさん知れました。例えば、オンライン取材があることや、一つの記事を作るにしても沢山の人を取材してそれを文章にするという大変な作業があることを知りました。家で新聞をとっていないけど、スマホや、テレビでニュースを見るだけでなく新聞などのメディアも利用していきたいなと感じました。神戸新聞などの一つの会社だけでなくたくさんの新聞に使われる記事を書くことは、とても大変だと思うけどその文章を書いている、斎藤記者の記事も読んでみたいと思いました。

斎藤記者振り返り

26歳の女性新聞記者で頑張っていて、尊敬した。YouTubeを見ようと思った。

自分なら、虐待の記事などをよく見るので、虐待がなくなり、虐待の記事がなくなるのが本望だけど、そんな記事があったら、見ると思う。

もっと新聞に興味を持って生きたいと思った。

斎藤記者の講演を聞いてわかったことは、新聞は読んでいる人の信頼を失わないように心がけるのが大切なんだとした。記者をしていると色んな場所に行くので色んな経験ができるんだなどわかりました。

振り返り

今回の公演で新聞記者の大切さが分かった。自分と年が近かったので身近なことに感じて分かりやすかった。新聞はスマホなどで簡単に読むことができるので自分から進んで読みたいと思った。ネットのには間違った情報もあるので簡単に信じすぎないようにしたいと思った。

今までの新聞記者と違い、紙面がない新聞社で、そういうのがあると始めて知った。最後の質問のとき苦労したことのほうが多いし、体力がいると言っていて、やっぱり記事を書くためにはいろんなことをしなければならないんだと改めて感じました。

私はゲームとかアニメとかが好きだから、それについて書いてあつたら読むので最近はやっているものとかを記事にすると若い人も読むんじゃないかと思いました。

斎藤記者 感想

新聞記者は色々な悲惨な事件などを取材しなければいけない場面もあると思うけど、そんな色々な情報が飛び交い批判もある世界で働き続けることができるメンタルがすごいと思う。

最後の質問コーナーで体力をつけるために筋トレなどをしていると聞いて、ストイックでとても新聞記者にすごく向いていて努力できる人なんだなと思う。

記者さんがどんなところに気をつけているのかがよくわかった。事故で息子さんをなくした遺族の方への気づかいや下準備などしっかり誠意をもって取材していてすごいと感じた。ほかにもオンラインでの取材と直接会う取材でのちがいはあんまりないと思っていたがその場の空気や言葉の真意など直接会わなければわからないプロの人だからこそわかることがなんだと思った。記者のひとは私が思っているよりも体力がいることに驚いた。

最近、若者は全然新聞を読まないし、新聞を取っている家も少ない。私もネットで情報を知ることが多い。でも、記者の人たちは変わらず取材していて、1つの記事を作る裏側にはたくさんの記者の苦労が詰まっていることを改めて感じた。でも、授業の中で新聞を使ったりして、少しずつだけど新聞を前よりは身近に感じられている気がする。私は、新聞の中で芸能人がどこかに取材しに行く記事があれば新聞を読むと思う。さらに、エンタメ情報をもっと大きく取り上げ、新聞を読まないと知ることが出来ない裏情報もあったらさらに読む人が増えると思う。文字を少しだけ減らして写真を多くしたりすれば、若者でも読みやすくなる。

新聞は新聞ノートを書くときでしか読まないけど、普段から読んで語彙を深めようと思った。ニュースはテレビやスマホで流れてきたものしか見ないので新聞で読んで読解力をあげてみたいと思った。新聞は文字が多い割に一字一字が小さいので読む気が失せてしまう。もう少し、文字を大きくするか文字と文字の間を空けてくれたら読みやすいと思う。

今回話を聞けてとても良かったです。記者としての在り方？みたいなのと記者の大変さを見る事ができました。記者の方も亡くなられた遺族の方に話を聞くのも話すのも辛いと思います。でも私は今までそんな思いをして記事を書いているのを知りませんでした。だからこんな風にに思いを聞いてよかったです。

皆が読みたくなるアイディア
個人的に最近の若い人の流行りだったり高齢者の方の流行りを混同させてみたりとか、小さい子でも楽しめるような子供向けの新聞だったり要素を入れると良いかなと私は思いました。

斎藤記者講演会 振り返り

どのメディアを信用すればいいかという質問に対して、自分で決めるのがいいと言っていて、じゃあ私はどのメディアを信用するか考えたとき、頭に浮かんだのはテレビや新聞の情報ではなく、SNS上の情報でした。SNSはたくさんの情報があってそれに対する様々な意見もたくさんあります。もちろん正しい情報もありますが、その分誤った情報もあります。SNSのみではなくテレビや新聞の情報も知っておくことが一番だと思いました。

今回の講演会で新聞記者という仕事の大変さを改めて感じました。重く感じることも責任をもち、その中でやりがいを感じながらできるということに尊敬しました。

今回の講演会の内容を聞いて感じたことは、新聞記者って自分が思っているよりも大変なんだと感じました。それに、1~2年の間は、警察・司法などを担当するといった様々なためになるような話を聞けてよかったです。みんなが新聞を読むようにするには、週一ペースでみんなが好きそうなコーナーを作る。毎週違うものをテーマにして読者に楽しんでもらえる。例えばアニメ・ゲーム・スポーツなどをテーマにして作る。

斎藤記者の話を聞いて、私達若者の新聞離れの現状を知ることができました。私の家は新聞を取っていないのであまり読む機会がないけれど、新聞は興味のある記事を選んで読めるので私はとても好きです。だからこそ、南武に限らずNIEの授業をもっと普及して、新聞を学生や若者が読む機会を増やせればいいのではないかと考えました。何気なく読んでいる一つの記事に、記者の苦労がたくさん詰まっているということがとても印象に残りました。

〈感想〉

新聞の記事は宿題の時しか見ようとは思わなかつたけど、少し気が向いたら見てみようと思います。新聞は白黒で文字も多いから読もうと思いません。ですが、写真の量が多いと少し読む気になります。新聞では文も読むけど、写真や、グラフを見ることが多いです。女性の記者だと舐められることがあったりセクハラを受けるので大変だと思いました。斎藤さんは遠距離恋愛になりすごく大変な時期があったと思います。なのにこうして乗り越え、すごい立派な人だと感じました。今日は大切な時間を作ってください本当にありがとうございました。

今回の講演を聞いて記者の人が相手の人に取材をする上で、特に相手の方が亡くなつた方のご遺族だつたりすると、心の傷を広げないように気配りをしたりすることが大変そうだなと思いました。けれども、様々な支所に配属されることで、普段行かないような地域に行くことができたり、その地域についてより深く知れることが良いなと思いました。また、最近若い人々は新聞離れをしていると知りましたが、僕はテレビのニュースやネット記事などを見ています。もっと若い世代に新聞を読んでもらうためには、暗い話題や難しい内容の記事を少し減らし、もっと明るいニュースや、流行りのことについて記事を書いてもらえれば、良いと思います。

記者になって4年なのにも関わらず、様々なキャリアを積んでいてすごいです。楽しいことだけでなく、遺族へのインタビューや遠距離恋愛など辛いことや苦労したこともあったのがよくわかりました。

目を合わせることが苦手だけど、仕事をする立場として相手の目を見るように心がけていると言っていて人の目を見ることはやはり大切だとあらためて実感しました。そして高校に新聞部があることや大学に新聞サークルがあることに驚きました。偶然行った学校に新聞部があってそこからずっと新聞に携わることをしていてすごいです。新聞部や新聞サークルでどんな活動をしていたのか気になりました。今日はお忙しい中ありがとうございました。大変なことも多いと思いますが、頑張ってください。

今日は講演会に来ていただきありがとうございました。新聞に関する色々な話が聞けて良かったです。新聞を家で取ってるからゆっくり読みたくなりました。警察署に毎日行って事件とかを聞くのは大変だと思いました。新聞のテレビ欄ばかり見ずに記事も読んでみたいのです。新聞はネットより信頼できるからたくさん記事を読みたいです。本当に乐しかったです。ありがとうございました。

新聞記者の調べただけではわからないところまでが分かり良かったです。特に17歳の少年の事件については心に残りました。新聞記者というのは地味に見えて本当はとても大変だということが分かりました。記者になった経緯も意外で驚きました。しかし記者という仕事が大変だということも分かりました。特に「苦労した取材のほうが多い」という言葉はそういったことをよく表していたと思います。斎藤記者の恩師の方が言っていたという「タフで優しい記者」というのはとても難しいことなんだなと感じました。タフになるためには悲惨な事件の取材でも精神を落ち着かせるために少し残酷のならなければいけないし記者として読者や事件の被害者などに優しくべきなのでそのバランスが大事だと思いました。

僕は斎藤記者の公演を聞いて、とても大変な仕事だなと思いました。でも、新聞記者のおかげで我々が世間のことを知ることができるので、とても感謝しています。僕が新聞を手に取るときは、学校で週に1回提出しなければならない「新聞ノート」に取り組むときだけです。僕は基本、Yahooで記事を読みます。しかし、人それぞれ考え方や価値観が違うので、新聞を読む人もいれば僕のようにインターネットやSNSを使う人もいる。でもどのが正しいかというのは、我々1人1人が考えなければならないことだということを今回の斎藤さんの公演で学ぶことができました。この度はお忙しい中来ていただきありがとうございました。

振り返り

斎藤記者の講演会で新聞の記事を書いて載るまでが日本中にその記事が載る可能性があるので責任が重大だと思うのでとても大変な事だなど聴いていて感じました。その中でも取材をするときに怖い思いをしたりすることがあると思うのですごいなとおもいました。新聞は新聞ノートの宿題のときに見たり読んだりする位なので家で新聞をとっているので読める時には読みたいです。アイディアは世間の声をわかりやすく取り入れてみてはどうでしょうか。世間の声を取り入れたら読んでいる人は他の人はそういう風にこのことについて考えているのだなと新しい考え方を共有するといいと考えたからです。

斎藤記者講演 感想

- ・ずっと笑ってお話をしてくれたので変に緊張せずに安心して聞きました。
- ・細かく話してくれました。
- ・最後まで聞かれたことに対して1つ1つ丁寧に答えていて素晴らしいと思いました。

今回のNIE講演会で、印象的だったことがいくつあります。1つ目は、取材という名の県外旅行ができることです。新型コロナの影響で、僕はゴールデンウィークや夏休みを台無しにされたのを覚えていました。なので、新聞記者という仕事が少し羨ましくなりました。

2つ目は、死亡事故の取材のことです。死亡事故が起きたとき、遺族の取材を行うのは辛いことだと斎藤記者はおっしゃいました。それを自分に置き換えてみると、現場に行く緊張と不安がとても伝わりました。なので新聞記者は、楽しい仕事もあれば、辛い仕事もあるのだと思いました。

斎藤記者の講演を聞いて、より新聞記者に関心を持つ事ができました。僕は神戸新聞を購読しているので、取材の裏側も考えながら、読んでいきたいと思います。

今回の公演で3年間時々行われていたNIE講演会が終わりました。振り返ってみると、毎回様々なテーマで新聞について学んでいました。今回もとても良い講演会になりました。いつもはベテランの新聞記者さんだったので、入社4年目の新人さんだと知った時は驚きました。良い意味で長くやってそうだなと思っていました。斎藤記者さんは秋田県出身の方なのに全然真逆の西日本の松山、そして神戸に転勤していく引っ越しやそこでの生活など色々大変だなと思いました。実際に斎藤さんが作られた記事を写真をプロジェクターで見た時は凄いなと思いました。最後の評議委員の質問コーナーも面白かったです。取材時での怖かったことや楽しかったことの思い出、取材をする上で大切なこと、意識されていること、女性ならではのことなど残りの10分間ぐらいでも見所いっぱい面白かったです。私は家でも新聞を取っていないので、学校に置かれている新聞を使って毎週の新聞ノートの宿題をしています。そんな私が新聞が読みたくなるようなアイデアを考えてみました。若い人は大人と比べては新聞は見ないイメージです。なので、10代の流行りのページや小さい子が好きなアニメなどにピックアップしてそれが新聞に乗っていたら素敵だなと思いました。斎藤記者、今回の講演会本当にありがとうございました。

斎藤記者が講演の中でいっていた「優しい記者とタフな記者の両立」という言葉が心に残った。この話は、前のNIEのとき、震災の話のときに辛くともシャッターを押さなければならぬといっていた話と繋がったからだ。斎藤記者が一番好きだと言っていた司法についての記事は、司法の用語など、いま社会でタイムリーにやっていたから、それに照らし合わせて考えてみると面白いかもしない。特に大変なのだなと思ったことは、お勤めの場所が頻々と移動することだ。今までの講師はそういうことにはあまりスポットを当てていなかつたから新鮮だった。私達と年が近い斎藤記者は若者の新聞離れのことがよく分かる当事者だから、今後の新聞社に必要な人だと思う。記者が自転車で走り回って手に入れた情報だからしっかり読み込みたい。私は新聞社に働いている人の中で編集者なども大切だとは思うが、記者が一番大事だと思う。なぜなら私達に正確な情報が届くのは大半が情報を取ってくれた記者さんのおかげだから、感謝したい。質問コーナーで、評議委員の質問を素早くメモをとって、的確に返していたから取材のスキルが垣間見えた気がした。とてもかっこよくて、私もやってみたいと思った。「目を合わせるのが苦手」といっていたが、それでもやろうとしていたから、相手に対して真摯に取り組んでいるのがわかった。普段からコミュニケーションを取っていたら、あんなにスラスラ喋れるようになるのかなと思った。今まで何回かNIEの講演があって、喋る内容も喋る人の人柄も全く違ったけれど、みんな共通してこの仕事にこだわっている人だと思った。仕事について深く語れる=仕事好きだと思うからだ。今回の斎藤記者は、好奇心旺盛だから新聞記者は天職だったのではないかと思った。

〈こうすれば良いのではないか〉

私は新聞が嫌いではないのであまり参考にはならないかもしれないが、コラムや「〇〇って？」のようなコーナーが好きなのでそのようなコーナーが好きだからあまり興味のないジャンルでもあったらつい読みたくなる。また「新聞はむずかしいことばがあっても調べるのがめんどうくさい」という人のためにワードの解説が逐一あると良いと思う。

愛媛で15kmを自転車で走り回ることになったと聞いて、新聞記者って体力がいるんだなあと思った。みかんを持った斎藤さんの顔がきらきらしていた。マイクの前で1時間最後までたくさん途切れず話していたのがすごかった。自分の話したいことがしっかり定まっているからだと考えた。信頼できるメディアはどれかと質問されたときに、それはみなさんが選ぶと答えていたのがかっこよく見えた。

感想

共同通信さんのこととは耳にしたことのあるような気がしていたけど、あまりパツとはしなかったのでまたYouTubeなどで調べてみたいです。また秋田県出身と仰っていたのに最初の勤め先が愛媛だと聞いて、少し驚きました。愛媛にいる間に自転車で計15kmも走っていたこと、新聞記者は以外に筋力、筋肉がいること含め、斎藤さんが仰っていて初めて聞いたことのほとんどに驚きを隠せませんでした。また若者でも読みやすいように少し漫画風に出来事を書いたり、写真をモノクロじゃなくてカラーにしていただいたら私も家とかで時々来る新聞を見たときに「あ、読んでみようかな」などと思い、読むことが増えると思います。

愛媛で15kmを自転車で走り回ることになったと聞いて、新聞記者って体力がいるんだなあと思った。みかんを持った斎藤さんの顔がきらきらしていた。マイクの前で1時間最後までたくさん途切れず話していたのがすごかった。自分の話したいことがしっかり定まっているからだと考えた。信頼できるメディアはどれかと質問されたときに、それはみなさんが選ぶと答えていたのがかっこよく見えた。

今回斎藤記者が話してくれた、「えひめ丸」の件について、亡くなった生徒の母親と電話で実際に取材したそうで、自分はあんまりそのことについて知らなかっただけど、斎藤記者のその時の思いとかを聞いているうちに本当に悲惨な出来事だったんだなど痛感し、実際の新聞を手にとって見てみたかった。世の中には様々な情報があって、それを新聞やSNS、テレビ、ラジオなど様々な媒体が自分たちに情報伝えてくれている。その中でも新聞は、記者の感じ取ったこと思いや感情が文字によって伝わるので情報を知るだけでなく、感性を育んでくれる力やもっと知りたいと意欲をかき立てる力があると思う。新聞にはいろんないいところがあって、自分がここに書いたメリットはほんの一部でしかないけど、新聞を読むことは本当に力になると思う。でも、新聞は文字だけで読もうとする意欲がなくなってしまうので、フォントや写真を工夫して、楽しく読めるようになつたらいいなと思う。